

尼崎市事業所景況調査

【 2019 (令和元) 年 4-6 月期 】

業況判断 DI は全産業、製造業、非製造業ともに、2期連続で悪化

<調査結果のポイント>

- ◎ **業況判断 DI** 製造業の大企業、建設業で大幅に悪化。
- ◎ **出荷額 DI** 製造業の大企業で大幅な低下。非製造業でも、卸売業をのぞき、低下。
- ◎ **収益 DI** 製造業、非製造業ともに低下。卸売業、小売業は大幅に低下。

<主要指標の結果概要>

- (1) **業況判断 DI** は、▲26.1 (9.5 ポイント低下) で悪化。来期は改善の見通し。
 産業別では、製造業は▲24.0 (11.6 ポイント低下) で悪化。非製造業も▲27.1 (8.6 ポイント低下) で悪化。製造業の規模別では、大企業で▲30.8 (23.7 ポイント低下)、中小企業で▲23.2 (10.1 ポイント低下) でした。
 非製造業では、建設業で▲30.3 (20.9 ポイント低下)、卸売業で▲27.3 (18.6 ポイント低下)、小売業で▲55.3 (13.3 ポイント低下)、サービス業で▲17.1 (3.7 ポイント低下) でした。
- (2) **出荷額・売上高・完成工事高 DI** は、▲27.4 (9.7 ポイント低下) となり、悪化。
- (3) **売上単価・客単価 DI** は、▲12.5 (3.0 ポイント低下) で、やや低下。
- (4) **(原材料) 仕入価格 DI** は、31.5 (2.4 ポイント低下) で、やや低下。
- (5) **在庫水準 DI** は、2.7 (0.5 ポイント低下) で、横ばい。
- (6) **収益 DI** は、▲32.1 (12.1 ポイント低下) で、悪化。
- (7) **資金繰り DI** は、▲12.6 (1.3 ポイント上昇) で、マイナス幅がやや縮小。
- (8) **従業員の過不足 DI** は、▲38.9 (5.3 ポイント上昇) となり、不足感がやや緩和しました。これは「不足」と回答した事業所の比率がやや低下したためです。ただし、依然として従業員の不足感が高い状況にあります。
- (9) **設備投資を実施した企業割合** は、19.0% (4.8 ポイント低下) となり、やや低下。来期は上昇の見通しです。

注1: DI は景気動向指数「ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」) と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」) と回答した企業の比率を差し引いたものです。

注2: () 内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点: 令和元年5月22日
- (2) 調査方法: アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数: 右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率: 36.9%
- (5) 事業主体: 尼崎市
 調査主体: (公財) 尼崎地域産業活性化機構

業種	回収数	回収率 (%)	配布数
全産業	369	36.9	1,000
製造業	125	47.2	265
大企業	13	35.1	37
中小企業	112	49.1	228
化学	15	44.1	34
鉄・非鉄	33	45.8	72
一般機械	33	52.4	63
電気機械	17	48.6	35
その他	27	44.3	61
非製造業	244	33.2	735
建設業	33	42.3	78
卸売業	22	38.6	57
小売業	48	28.2	170
サービス業	141	32.8	430

<本資料の問い合わせ先>

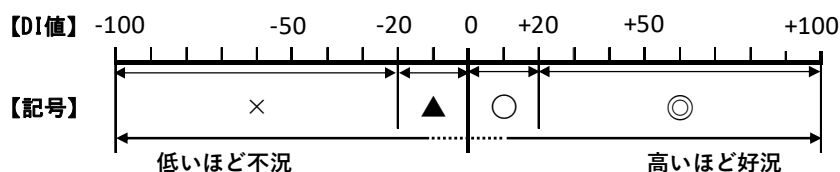
- 尼崎市 経済環境局 経済活性化課
 担当: 西岡・下司 連絡先: 06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室
 担当: 宮崎、井上 連絡先: 06-6488-9501 (代)
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

■景況調査結果の総括（平成 31 年 1-3 月期）

業種 項目	全産業 (総計)	製造業			非製造業				
		合計	大企業	中小企業	合計	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回 業況判断 DI値 ※1	×	×	×	×	×	×	×	×	▲
	-26.1	-24.0	-30.8	-23.2	-27.1	-30.3	-27.3	-55.3	-17.1
前回との 差 ※2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	-9.5	-11.6	-23.7	-10.1	-8.6	-20.9	-18.6	-13.3	-3.7

表のよみ方

※1：「業況判断 DI 値」(=「好転した割合」-「悪化した割合」)は、下図のとおり記号化しました。



※2：「前回との差」は、前回(H30. 9-12 月期)の DI 値との差を、下表のとおり記号化しました。

記号	↓	↓	↓	—	↑	↑	↑
意味	大幅な下落	下落	やや下落	横ばい	やや上昇	上昇	大幅な上昇
DI値の差	-20.0以下	-20.0超～ -5.0以下	-5.0超～ -1.0以下	-1.0超～ 1.0未満	1.0以上～ 5.0未満	5.0以上～ 20.0未満	20.0以上

■産業別の概要

【製造業】「事業所の業況判断 DI」は▲24.0（11.6 ポイント低下）で、悪化しました。「出荷額 DI」「収益 DI」はともに悪化し、「資金繰り DI」は横ばいでした。「売上単価 DI」は低下しましたが、「原材料仕入価格」も低下しました。「在庫水準 DI」は低下しました。「設備投資」実施割合は低下しましたが、来期は上昇する見通しです。「従業員の過不足 DI」は上昇しました。これは「不足」の回答比率が低下したためです。ただし、依然として不足感が高い状況です。**来期業況は改善の見通し**です。

<規模別の業況判断 DI> **【大企業】**は大幅に悪化。**【中小企業】**も悪化しました。**来期業況は、【大企業】は大幅な改善、【中小企業】は改善の見通し**です。

<業種別の業況判断 DI> **【化学・プラ他】**は大幅に改善、**【その他】**は改善しましたが、**【鉄・非鉄・金属】**【一般・輸送機械】**【電気機械】**はいずれも大幅に悪化しました。**来期業況は、5 業種とも改善の見通しですが、【鉄・非鉄・金属】【電気機械】は、大幅に改善の見通し**です。

【非製造業】「事業所の業況判断 DI」は▲27.1（8.6 ポイント低下）で、悪化しました。「売上高・完成工事高 DI」「収益 DI」は悪化、「資金繰り DI」はやや改善しました。「売上単価・客単価 DI」は横ばいで、「(原材料)仕入価格 DI」はやや上昇しています。「在庫水準 DI」は上昇しました。「設備投資」実施割合はやや低下しましたが、来期は上昇する見通しです。「従業員の過不足 DI」はやや上昇しましたが、依然として不足感が高い状況です。**来期業況は改善の見通し**です。

<業種別の業況判断 DI>

【建設業】▲30.3（20.9 ポイント低下）で、大幅に悪化。来期は大幅に改善の見通しです。

【卸売業】▲27.3（18.6 ポイント低下）となり、悪化。来期は改善の見通しです。

【小売業】▲55.3（13.3 ポイント低下）で、悪化。来期はやや悪化の見通しです。

【サービス業】▲17.1（3.7 ポイント低下）となり、やや悪化。来期はやや改善の見通しです。

調査結果の詳細は、右記ホームページをご覧ください。 <https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>